



編集ボランティアのページ

●担当編集ボランティア / 日置雅夫・岩下茂子

スリランカで国際協力活動 タランガフレンドシップグループの事例-その1

NPO法人タランガフレンドシップグループ(以下TFG)は、2007年度から2年かけて、スリランカの北西州でJICA(ジャイカ/独立行政法人国際協力機構)の草の根技術協力事業のTFGプロジェクトを実施しました。

このプロジェクトでは、北西州の低開発村の若者などを対象に、農業研修事業と販売ネットワーク構築事業を行いました。参加した研修生の人数は191名です。

1993年以来、TFGは北西州政府と協力しながら職業訓練支援を行ってきました。資金と機材と技術を提供することで、低開発村の若者の経済的自立、社会的自立を促進してきました。すでに、約10年かけて約1,800名の研修生を地域社会に送り出しました。

現在のスリランカでは、内戦も終結し、平和を取り戻し、順調な経済活動が行われています。2007年当時は、政府高官が暗殺されるなど、町中でもテロが頻発し、スリランカ人は神経質になっていました。私がホームステイしていた家の近くでも、人が乗っているバスへの爆弾テロがありました。スリランカ人の7割はシンハラ人ですが、主に北部に住むタミール人が独立を望み、内戦となっていました。従って、タミール人が多く住む北部へは容易に行くことができませんでした。

JICAの草の根技術協力事業は、日本のNGOなどの団体が経験や技術を活かして企画し、途上国への協力活動をJICAが支援するものです。そして、共同で行い、途上国の地域住民に直接役立つ事業を行います。(日置)



JICAスリランカ事務所を訪問・打合せ
2007年9月14日撮影

「デフリンピック」をご存知ですか？

前回の記事でオリンピック・パラリンピック・スペシャルオリンピックを紹介させていただきましたが、実はもうひとつ〇〇オリンピックがあるのをご存知でしたか？

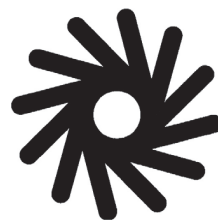
それが「デフリンピック」です。

デフリンピックとは、ろう者自身が運営しており、4年に一度開催される、ろう者による、ろう者のための国際的な総合スポーツ大会です。1924年フランス(パリ)で第1回夏季大会が、1949年オーストリアで第1回冬季大会が開催されました。日本は1964年アメリカ(ワシントン)で開催された第10回夏季大会、1967年西ドイツの第6回冬季大会から参加しています。

しかし、オリンピック、パラリンピックと比べると認知度が低いため、大会遠征費等も自費で賄わなければならないなど、支援は十分ではありません。

選手達も練習時間を確保する為の負担も大きく厳しい状況の中ではありますが、みなさん頑張っています。オリンピック・パラリンピックと同じように指導者のいるスポーツセンター、スポーツ医学・科学、情報分野からの支援も受けられるようになると思います。

今、全日本ろうあ連盟では、デフリンピック100周年の歴史的節目である2025年に日本(東京)開催を目指して、連盟、選手一丸となって頑張っているそうです。ぜひ開催誘致に成功し、それが、日本におけるデフスポーツ環境の発展につながり、きこえない子供たちの夢を育むことになればよいと思います。(岩下)



デフリンピック公式ロゴマーク
(実際は赤、青、黄、緑のカラーです)